

2022 - 2023 年度ランチ委員会メンバー



左から：渋谷明美・大野宏子・境雅子・鳥山豊喜・小杉由美子・寺久保ヒロ子

2022 - 2023 年度委員会

チェアマン 鳥山豊喜 044-577-5231
t-toriyama660@jcom.home.ne.jp
セクレタリ 小杉由美子 047-463-8520
ferrule.yotsukaidou@gmail.com
トレジャラ 境 雅子 047-368-3873
委員 大野宏子 (ランチショップ
担当) 042-576-9587
委員 寺久保ヒロ子 03-3801-6139
委員 渋谷明美 047-351-8581

メンバーシップ・セクレタリは当面チェアマン
が兼務します。

ブランチレター/ニュースなどの発送は船橋市
の会員の方々のご支援をいただけることになりま
した。

ランチクラス

ビギナーズ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室
9月12日(月) 1:30-4:00 講師 小杉由美子
10月15日(土) 1:30-4:00 講師 若松陽子
¥500

お問合せ：渋谷明美 047-351-8581

ソーシャル・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室
9月26日(月) 1:30-4:00 講師 境 雅子
10月8日(土) 1:30-4:00 講師 西森典子
¥500

お問合せ：寺久保ヒロ子 03-3801-6139

e-mail 会員に配慮し、ブランチレターをホームページに載せるのは1か月後とします

RSCDS 100 年記念行事

2023 年は RSCDS 創立 100 年にあたり、本部ではつぎの行事を計画している。

- 2022 年**
11.4 - 6 グラスゴーの年次総会（秋のギャザリング）で記念行事をスタート。記念ウィスキーとジンの受付開始。
- 2023 年**
2.19 - 24 ピトロッホリーのアソル・パレス・ホテルでウィンタースクール。記念ウィスキーとジンの販売。
- 2.24（金） ウェイバリー駅で急行列車フライング・スコッツマン（これも 100 年）との共同祝賀会。
- 3.25（土） エジンバラのアセンブリー・ルームで 100 周年記念ボール。
- 4 月・5 月 エジンバラ、トロント、オーストラリア/NZ でスプリング・フリング。
- 6 月 エジンバラの国立美術館で “Minister on the Loch” の特別イベント。Book 53 発行。
- 7.16 - 8.13 サマースクール。
- 9.30（土） **全世界で「24 時間ダンス」。**
- 11.3 - 5 グラスゴーで記念ギャザリング
- 11.26（日） 1923 年、ソサエティの結成会議が行われたグラスゴーのアサニーム（アテネ神殿/文芸協会）で記念式典。

ウクライナ戦争・本部役員会の声明

『私たちは、この紛争がメンバーに影響を与えており、これを深く悲しんでいる。ロシアのウクライナ侵攻が、これほど多くの死と苦しみをもたらしていることを強く非難する。

ウクライナの会員とグループは今後 2 年間、会費支払いを免除される。世界の会員とブランチは、さまざまなウクライナに対する人道支援活動に参加してほしい。

役員会はロシアのダンサーからの投稿をマガジンに掲載しないことを決定し、モスクワ・ブランチからの Book 53 向け応募ダンスは返却した。

しかし私たちはロシア人ダンサーの友人であり、ダンシングという社会活動が再びグローバルになる平和なときが来ることを願っている。

（2022.5.2）』

サマースクールのティーチャー、 ミュージシャンに謝礼

いままで（90 年間）サマースクールのティーチャー、ミュージシャンは謝礼なしであった。交通費支給、食費・宿泊費免除であったが、本部はこれに加え謝礼を払うことにした。今後すべての本部主催行事で謝礼支払いが行われる。

「24 時間ダンス」の中核ダンス

左記のとおり来年 9 月 30 日（土）は「24 時間ダンス」として、ニュージーランドから始まり、オーストラリア、日本、香港に続いて欧州、アフリカ、南北アメリカ、そしてハワイで終わるダンス会を開くよう本部は希望している。

ダンス会プログラムのコア（中核）となる 10 ダンスは、6 月下旬につぎのとおり発表された。ソサエティ 100 年を 10 年ごとに区切り、その 10 年を代表するダンスで、子ども・ビギナーズ・アドバンストのダンサーのいずれにも合うように選定したとのこと。この順序どおりにプログラムを進めろということではなく、ブランチ実情に合わせて順序を変えてもよいと考える。

1923 - 32	Flowers of Edinburgh	R32
1933 - 42	The Rakes of Glasgow	S32
1943 - 52	Ladies' Fancy	J32
1953 - 62	None so Pretty	R40
1963 - 72	Neidpath Castle	S32
1973 - 82	The Old Man of Storr	R32
1983 - 92	Gothenburg's Welcome	J32
1993 - 02	Anna Holden's Strathspey	S32
2003 - 12	Scott Meikle	R32
2013 - 22	Farewell to Balfour Road	J96

新しい会場探し！

ーウィークエンド 2023ー

大江戸温泉物語・日光霧降のホールは経営方針変更によって 10 月末で閉鎖となった。新しい会場を当たらなければならず、委員会は苦慮しています。みなさんに新会場の心当たりがあれば、どうか委員会にご連絡を。

マガジン未着

マガジン 34 号未着について、改めて送付を本部に要求しました。他のブランチではこのようなことはなく、なぜわがブランチだけに未着が起こったのか原因探求中です。

次号マガジンでは未着のないよう、本部に登録してある東京ブランチ会員データを精査します。

念のため、本部ホームページに閲覧登録している会員は、次のようにホームページから送付希望をチェックしてください。

1. 本部ホームページの「My RSCDS」からログインし、「My RSCDS」画面を出す。
 2. 「Edit my profile」をクリックし、氏名・住所欄の下方にある「Would you like to receive our magazine?」で、Digital（電子版）か Print（紙版）に黒丸を入れる。
 3. 「SUBMIT」をクリックする。
- 本部のマガジン発送準備に先行するよう、上記の手順は9月上旬までに行ってください。

New Year Dance 2023

2023 年 1 月 14 日（土）午後

北区赤羽会館

会費・プログラムは 10 月末に発表

会場確保にあたり、赤羽 SCDC 会員の方々の多大なご援助をいただき、大変感謝しています。

Book 53 ダンスのトライアル

Book 53 向けダンス募集には各ブランチから計 200 を超えるダンス応募があり、第 1 次評価（トライアル）に加わりたいブランチは手を挙げてほしいとの本部連絡であった。わがブランチもこれに参加し、ブランチクラス+数グループで評価した。トライアルは 10 のダンスで、リール第 85 番とストラスペイ第 27 番が、それぞれ 10 点満点中 8 点を獲得した。

リール第 85 番（8 x 32）は 1 組、17-24 小節のアーチくぐり往復のあと、25-32 小節のリール・オブ・スリーで終わるといふ踊り。ストラスペイ第 27 番（3 x 32）は 13-20 小節のダイヤゴナル 1/2 ドルフィン・リールが特徴である。いずれも独創性・単純性・流れがあり、踊っていて楽しい。この 2 つが入るか、来年の Book 53 出版が楽しみである。

クラスで踊られたダンス

ビギナーズ・クラス

4 月 11 日	富谷佐千子		
	Monique's Jig	40J	Goldring
	Mary Erskine	32R	Graded 2
	Noli Me Tangere	32S	Steinbach
5 月 2 日	寺久保ヒロ子 / 大竹 奏		
	Come under My	32J	Children's Book
	Praidie		
	Da Trowie Reel	16S	
		+16R	Taylor
	Demo Dandy Dancers	32R	Bain
	The Axum Reel	32S	Book 18
	Staggering Hame	32J	J & B Rose
7 月 4 日	神倉那智子		
	Take Five	32J	Veranth
	Clutha	48R	Book 31
	Castle Douglas	32S	Goldring
8 月 8 日	トム鳥山		
	Golden Bracken	32R	Graded 2
	The Haar on Skye	32S	Graded 3
	Another Woodland...	32J	Graded 2
	The Rose of the North	32S	Goldring
	The Provost Wynd	32R	Graded 2

ソーシャル・クラス

4 月 17 日	寺久保ヒロ子		
	Ewan's Midnight	32S	
	Medley	+32R	Peart
	The Barmaid's Jig	32J	Burrows
	Indian River S'pey	32S	Senyk
	John Cass	32J	Book 49
5 月 22 日	神倉那智子		
	All the Lads they Smile		
	at Me	48J	Vinnall
	Forty-Something Reel	40R	Kelly
	O'er the Mountain	32S	Carnes
6 月 5 日	工藤祐享		
	Lowern Fair	32R	Imperial 1
	John of Badenyon	48S	Foss
8 月 6 日	トム鳥山		
	White Eagle	32J	神倉那智子
	Elsbeth Gray's Reel	32R	トム鳥山
	Fearless Tokyo S'pey	32S	トム鳥山
	以上は Book 53 ブランチ提出ダンス		
	Freda's Frolic	32J	Trafford

運営委員会報告

2021年度は引き続きインターネットを利用して委員会を毎月開催した。以下はその要約である。

2021.5.3

- ・緊急事態宣言発令により5月クラスは中止。
- ・電話勧誘により会員登録更新を推進した。

2021.6.3

- ・6月クラスは中止。

2021.7.9

- ・7月・8月のクラスは中止。
- ・10月末予定のウィークエンドは来年5月に延期する。

2021.8.2

- ・ウィークエンドは5月22日（日）～24日（火）とする。
- ・来年度委員の募集を開始する。

2021.9.3

- ・ウィークエンドの時間割、送迎、通訳などの人選を討議。
- ・New Year Danceはコロナ次第だが、実施困難と思われる。

2021.10.1 & 10.15

- ・New Year Danceは中止する。
- ・12/5にDance Gatheringを成増で行う。
- ・ウィークエンドの参加申込用紙を12月末に会員に送付する。

2021.11.5

- ・ウィークエンド参加申込用紙の発送は2月末とする。

2021.12.19

- ・本部からBook 53向けダンス募集連絡あり、1/31締切りでニュースに載せる。
- ・文書による次期委員募集はまったく反応がない。個別にあたることにする。

2022.1.12

- ・1月のクラスは中止。
- ・ウィークエンドはコロナの様子見とする。

2022.2.7

- ・3ブランチ連絡会で本部納入会費は4千円となったが、東京ブランチ会員は3千円とし、差額千円は繰越金から支出する。
- ・次期委員候補をあたるがすべてNO。
- ・Book 53応募ダンスは各委員が自分のクラスで評価し、結果を2/25に本部に提出する。

- ・ウィークエンドは実施可否を4月初めに決める。

2022.3.7

- ・次期委員候補をあたるがすべてNO。
- ・千円をブランチ負担とした本部会費は適切な判断だったと思う。

2022.4.1

- ・ウィークエンドは中止とする。コロナ感染を気づかって不参加を伝える会員もおり、最大の理由は英国からの入国者に6日間の停留が義務づけられているためである。

2022.5.9

- ・年次総会は6/4荒川区西部ひろば館で行う。
- ・日本試験委員会（JEC2022）から受験生6名全員合格との通知あり。
- ・会員から「マガジン日本語版、ほとんどの会員は読んでいないのでは？ やめたら？」との意見。日本語版を読んで世界とのつながりを感じている会員は多いと思う。これからも続ける。

2022.6.13

- ・Book 53ダンスのトライアル、本部から候補ダンスを送ってもらい、数グループとブランチで評価、結果を本部に連絡した。
- ・6/4の年次総会で議案はすべて承認されたが2022/23年度の新委員決まらず、7/2に臨時総会を開くことになった。

2022.7.29（新橋・区立生涯学習センター）

- ・マガジン34号未着について、本部に送付を再度申し入れた。
- ・本号からブランチレターをカラー化する。
- ・10月以降のブランチクラスは千代田区立スポーツセンターとし、講師の引き受けを各委員から個々にお問い合わせすることになった。
- ・1/14 New Year Danceのプログラム案作成は境委員が担当する。9月末委員会で内容決定。
- ・5月のウィークエンドは千葉県某所をあたる。実施を見送るのも選択肢の一つ。
- ・来年8月末のBook 53ダンス講習会、同9/30の「24時間ダンス」の会場確保は、予約抽選が1年前からという会場もあり、抽選に当たるかどうか神頼みであるが、今から手配を進めてゆく。
- ・8/28の3ブランチ・3役連絡会における東京ブランチとしての発議内容について話し合った。

The Birks of Invermay – RSCDS Book 16

コロナ感染拡大によって、世界のSCD活動は大きな打撃を受けた。本部はダンサー同士のつながりを保ち、士気を鼓舞するため、2020年3月から電子情報によるDSAHA (Dance Scottish at Home/家でスコティッシュを踊ろう) を毎週配信した。DSAHA内容の中にWhat's behind the Name? (ダンス名のうしろにあるもの) があり、ピーター・ナップマンがそのダンスの背景・周辺を解説した。歴史好きにとっては面白いが、技術史といえるものもあって、ひとによっては合わない記事だが、しばらく日本語訳を連載する (Tom)。

このダンスの有名な曲の生年は不明であるが、もっとも早い出版は1733年のウィリアム・トムソンの本、「オルフェウス・カレドニウス」で、その題名は「*The Birks of Endermay*」となっている。この歌には2つの詩 (デビッド・マレット作) がある。1787年にジョンソンの「*The Scots Musical Museum* スコットランド音楽博物館」に収録され、題名はいまもわれわれがなじんでいる *The Birks of Invermay* となり、さらに2つの詩 (アレックス・ブライス師の作) が加えられた。(birk = birch = 樺の木)

インバメイ (ネイティブの発音はインバミィに近い) の地は、メイ川 Water of May に沿ったパースシャーのストラスヤーン地域にある。メイ川は小さな川で、オーキル・ヒルに発し、ヤーン川にそそぐ。川の一部は、白樺の木で覆われた狭くて急な谷を流れている。いまはたいへん辺りな地であるが、18世紀と19世紀の初めには、メイ川の広大な景色を眺められる小道と橋があった。谷はおとなしいブンブン谷と呼ばれているが、急流が引き起こす水音にちなむものである。



19世紀、インバメイは当時の本で紹介された大自然の見どころだった。多くの著名人も訪れ、サー・ウォルター・スコットもその一人で、彼は1820年代にここで過ごしている。残念なことに現在では、谷を間近に見ることができる小道を通るのはわずかな人たちだけである。であるが、最もアクセスしやすい小道が、ほとんど白樺のない森であっても、この地の一部を歩くのは興味深い体験である。

その地を歴史上およびダンスの見方でみると、該当地に関するもっともはっきりした記述は、ロバート・スチュアートがデビッド王によって土地を与えられた1362年にある。その土地はイナーミース Innermeath と呼ばれ、スチュアート家は1600年代初めまでここで暮らした。いろいろな人の手に渡った後、ベルシェス Belsches が1717年にここを購入した。1700年代の終わりにジョン・ベルシェスはマリー・ヘバーン Mary Hepburn と結婚し、ヘバーン=ベルシェスという二重姓を名乗った。この名前は、みなさんも踊ったことのある *Mrs Hepburn Belches of Invermay* とよく似ている。このダンスはもともと1789年にパースのジョン・ボウイが出版した音楽とダンスの本にあり、ジョンが綴りを間違えたように思える。ジョン・ボウイの本にある2つのダンスはRSCDSが出版しているが、残念ながら *Miss Hepburn Belches* はその中に入っていない。*Miss Hepburn Belches* は1970年代に盛んに踊られた踊りであるが、最近では好みから外れたように思える。すばらしい音楽の素直なダンスなのに、本当に残念である。

みなさんはジョン・ボウイの本の中にあって、RSCDSが採用した2つのダンスをご存じだろうか？*
そのダンスを踊られたことがあるだろうか？

**Miss Murray of Lintrose* (R32) Book 27 と *Miss Murray of Ochertyre* (R16) Book 11 である。

The Flying Scotsman – Collins Little Book of Scottish Dance (Hugh Thurston)



The Flying Scotsman は子どもたちにとって人気のダンスであり、カントリー・ダンサーでない人にもケイリでしょっちゅう踊られている。このダンスは世界でもっとも有名な急行列車の名にちなんでいる。列車の始まりは1862年（生麦事件の文久2年）にさかのぼることができ、今もなお運行されている。

その名前の由来は？ また、その名前を持つ蒸気機関車が、鉄道ファンはもちろん、そうでない人々の心をもつかんでいるのはなぜだろうか？

北への鉄道レース

19世紀、鉄道網が拡大するにつれ、長距離移動の可能性が鉄道会社の意欲を刺激し始めた。小さな鉄道各社は互いに連携し、各都市を結ぶ長距離ルートを実行する共同体を結成した。1862年、ロンドンーエジンバラ間の「スペシャル・スコッチ・エクスプレス」の運行が始まった。ロンドン・キングズクロス駅とエジンバラ・ウェイバリー駅両方から午前10時、同時に出発する列車であった。10時間半の旅で、途中のヨーク駅で30分のランチタイムが設けられていた。この急行は「ザ・フライング・スコットマン（空飛ぶスコットランド人）」のニックネームで知られるようになった。他の鉄道各社も負けてはいられないとして、同じように共同体を作り、西側の鉄道路線を使用して、ロンドン・ユーストン駅とグラスゴーを結んだ。このルートはプリンズ・ストリート駅をターミナルとするエジンバラへの支線を設けていた。プリンズ・ストリート駅はウォルドーフ・アストリア・ホテル（以前はカレドニアン・ホテル）としていまも残っている。



カレドニアン・ホテル



ウェイバリー駅

長年にわたって続く熾烈なライバル関係が始まったのである。この急行サービスのために投入された機関車は、スピードアップを目的として製造された。東海岸ルートではパトリック・スターリング設計の8フィート（2.4m）単動輪、カーライル経由の西海岸ルートではカレドニアン鉄道のNo. 123が有名である。（英米の鉄道記事でengine ないし steam engine といえば蒸気機関車である。SLは和製英語）。



カレドニアン No. 123



パトリック・スターリング 8 フィート・シングル

1888年にいたってライバル同士の競争が激化した。輸送重量を軽減化し、途中停車駅を最小限にとどめ、エジンバラ到着を第一とするため、すべての普通列車は脇によけられた。各会社は鈍行の長距離列車を「スコッチ・エクスプレス」優先としたため、少しばかげたことになり始めた。

フォース鉄道橋の完成後、1895年には鉄道レースはアバディーンに延びることになったが、すぐに歴史の物語に取り込まれることになった。というのは1896年、西海岸ルートがプレストン近郊（イングランド北西部）で脱線し、乗客1人が死亡したのである。多くのリスクが重なった結果であった。この不幸な事件を受けて、ロンドンとエジンバラ／グラスゴー間の所要時間を最小8時間とする合意がなされた。北への鉄道レースはもはや終わりを迎えた。

世界でもっとも有名な列車

スピード競争がなくなり、ライバル会社どうしは顧客を引き付ける他の方法を模索し始めた。1923年の鉄道網の統合後、ロンドンからエジンバラへの路線がロンドン・ノースイースタン鉄道（LNER）に引き継がれることになった。

1924年、LNERは「スペシャル・スコッチ・エクスプレス」を、非公式だがはるかに相応しい名前に置き換えることに決めた。「ザ・フライング・スコッツマン」がそれで、そのキャッチフレーズは「世界でもっとも有名な列車」であった。この名前はロンドンーエジンバラ間を5時間40分で結ぶ公共交通手段として、今も毎日運行されている。有名な諸機関車がフライング・スコッツマンを牽引したが、その中には、1938年に世界最速の時速126マイル（203km）を記録したサー・ナイジェル・グレスリー設計のA4パシフィック、「マラード（マガモ）」もある。（‘パシフィック’は、前輪2軸・動輪3軸・従輪1軸の機関車形式。日本式表示は‘2C1’）。

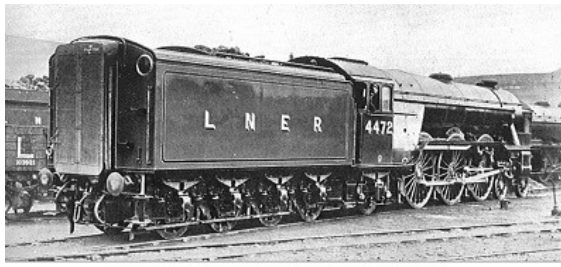


機関車

1923年、LNERの主任設計者ナイジェル・グレスリーは、東海岸幹線における運用のため、強力なパシフィック・クラスの高速旅客用機関車、A1クラスを導入した。1923年2月にA1クラス1472号が完成したとき、機関車は人格を獲得し、1つの伝説が始まった。

1924年にLNERは新製のA1パシフィック機関車にフライング・スコッツマンの名前をつけ、急行サービスの宣伝・浸透をはかることを決定した。列車名と同じだが、機関車に定冠詞はない。1472号は後年4472号に変更されたが、幸運に恵まれた機関車であった。1924年ロンドン・ウェンブリーで開催された大英帝国博覧会でLNERを代表し、その後も宣伝が続いた。

1928年にLNERはロンドンースコットランド間でノンストップ・サービスを開始した。機関士の途中交代が必要である。グレスリーの独創的な解決策は、中間点で機関士を交代させるため、炭水車に貫通路を設けるものであった。ノンストップ・サービスは1928年5月1日に開始されたが、その機関車はNo. 4472 フライング・スコッツマンでなければならなかった。さらなる記録は、1934年にフライング・スコッツマンが英国で初めて時速100マイル運転を行なったことである。



Flying Scotsman with corridor tender (1928)



Flying Scotsman modified as A3 Pacific (1957)

貫通路つき炭水車のフライング・スコッツマン（1928年） A3クラス・パシフィックのスコッツマン（1957年）

第2次大戦後、フライング・スコッツマンはボイラを大型化して改造され、1948年の鉄道国有化により A3 パシフィックとして機関車番号が 103 に、ついで 60103 号になった。

機関車の保存活動

フライング・スコッツマンは、正式廃車後、かえって有名になった。機関車はアラン・ペグラーが買い取り、もとの番号 4472 が復活し、LNER グリーンの塗装を含む完全なオーバーホールをうけた。ペグラーはまた、フライング・スコッツマンが、ときどきなら幹線で走行してもよいという許可を獲得した。新しい命が生まれた。



Flying Scotsman as restored by Alan Pegler
Phil Sangwell, CC BY 2.0

アラン・ペグラーによって復元されたフライング・スコッツマン

新しい命の中には、ノンストップ・サービス 40 周年を記念する 1968 年 5 月のロンドン・キングズクロス駅からエジンバラまでのノンストップ運転も含まれていた。1969 年にアメリカでの運転が行われたが、残念ながら経済的に悲惨な結果となり、アラン・ペグラーは破産に追い込まれた。フライング・スコッツマンはアメリカで立ち往生するはめに陥った。

1973 年、ウィリアム・マカルピンが救出計画をまとめ、機関車を英国に戻し、大規模なオーバーホールを行なった。サー・ウィリアム・マカルピンはフライング・スコッツマンを 23 年間所有し、オーストラリアで特別列車を 442 マイル（700 km）ノンストップで走らせるなども行なった。

1996 年に所有権の移転があり、2004 年に別の危機が訪れたが、今度はヨークの国立鉄道博物館が関心を示し、フライング・スコッツマンを国の資産として購入した。博物館は機関車を 1963 年当時の状態に戻すことを決めた。現在、国鉄グリーンに塗装され、番号は 60103 となっている。フライング・スコッツマンは世界でもっとも有名な機関車としてよみがえった。



現在のフライング・スコットマン

静態展示を超え、フライング・スコットマンは英国鉄路で運転を許されている最古の幹線機関車としての記録を保持している。フライング・スコットマンが牽引する列車は、セトルーカーライル線（カーライルから南東への路線）のリブルヘッド高架橋（長さ 400 m×高さ 32 m・単線）やフォース鉄道橋などの歴史あるルートを渡る際に人気がある。



リブルヘッド高架橋

プラットフォームや線路脇で老若男女の群衆をひき付け、過去を迫体験する人もいれば、客車を牽引する機関車を初めて見て、スリルに引き込まれる人もいる。

蒸気機関車愛好家でない人は、フライング・スコットマンになぜ複数の機関車番号と塗装色があるのか不思議に思うかもしれない。この疑問はいろいろな見解を持つ鉄道ファン間でも論争がある。その実働期を通じて、フライング・スコットマンに外観を含むさまざまな変更があった。1923年以來、形式変更3回、塗装色変更4回、機関車番号の変更6回、炭水車の変更9回があり、ボイラにいたっては少なくとも15回交換されている。このビンテージ機関車を説明するのは簡単ではないが、蒸気機関車の記憶が1950年代、60年代に由来する1人として、(私、ピーター・ナップマンは) フライング・スコットマンは現在の国鉄グリーン、番号は60103でよいと思っている。終わりに一言。フライング・スコットマンとRSCDSは1923年に活動を始め、2023年に期待と希望をもって100周年を迎える。

スコットランドの歴史で、この日は from Dance Scottish at Home, 18 Sep 2020

RSCDS Book 17 の “Twenty-first of September” を踊ったことがある人はどれくらいいるだろうか？ このダンスには3カプルの Allemande が2回あり、1回目はCWに、2回目はふつうのACWに回るやり方で、クラスが混乱するダンスでもある。1796年にウィリアム・キャンベルがこのダンスを作ったとみなされており、以下の2番目の記事を指しているが、この日はほかにもかなり重要なできごとがある。



James V: Royal Collection / Public domain

1513年9月21日 (将軍は足利義植^{よしたね}。対外貿易で大内氏と細川氏競合)

スコットランド王ジェームズ5世が、わずか1歳でスターリング城で即位した。彼はジェームズ4世とマーガレット・チューダーの息子で、父がフロドンで戦死したため王位を継承した。幼少時代は貴族間の権力闘争の時代であった。ジェームズが権力を掌握するに至ったとき、彼は貧しい人たちに同情し、王国内を変装して旅し、グードマン・オー・バラングー Guidman o' Ballengeich (バラングーの善人) として知られるようになった (水戸黄門漫遊記と同じく伝説である)。彼の娘がスコットランド女王メアリーである。

ダンス *The Guidman of Balangigh* については別の機会に述べる。

1745年9月21日 (徳川吉宗の享保の改革の末期。農民困窮)

プレストンパンズでジャコバイト軍がコープ将軍を撃ち破った日である。この戦勝を祝って *Twenty-first of September* が作られたとされている。この戦いは、第2次ジャコバイト反乱における最初の戦闘であった。エジンバラの東、イースト・ロージアン^{ロージアン}のプレストンパンズで戦端が開かれたが15分も続かず、ジャコバイト側の死傷者はわずか100人であったため、伝説となった。この勝利で、ボニー・プリンス・チャーリーが率いるジャコバイト軍は抵抗なくイングランドに侵攻できた。 *Twenty-first of September* と同様に戦いに触発されたダンスが *Hey, Johnnie Cope* で、こちらはヒュー・フォスのブック、 *Dances to Song Tunes* に載っている。

プレストンパンズの戦い記念碑→



Battle of Prestonpans memorial cairn
Kim Traynor / CC BY-SA

1756年9月21日 (将軍は家重。奥羽大飢饉により米価高騰)



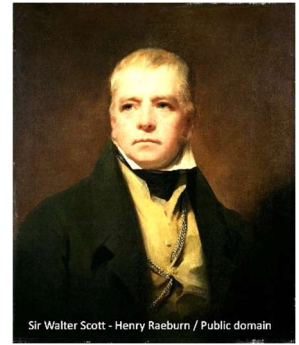
John Loudon McAdam
Stephencdickson / CC BY-SA

ジョン・ラウドン・マカダムがエアで生まれた。マカダムは土木技師としてトマス・テルフォードに匹敵するという人もいる。ジョンは10人兄弟の末っ子で、14歳のときに父が亡くなったため、植民地アメリカに住む叔父に引き取られることになった。2人は信じられないほどの成功したビジネスマンとなり、ジョンは18歳でニューヨーク商工会議所の会計に選ばれた。

しかし、1783年、英国がアメリカの独立を正式に承認したため、ジョンは余儀なく本国に帰還し、エアシャーに家を購入した。郡の副知事を務めていたマカダムは、劣悪な道路事情を何とかしなければと考えた。凸凹で、移動に危険、修理は高額という状況だった。路床を高くし、いろいろな大きさの石を敷きつめたマカダム道路の出現は、雨に流されず、永続的で、費用も安かったため、近代道路の始まりとなった。この工法は他の国にも急速に普及し、ジョン・マカダムは、マカダム道路の考案者として広く知られるようになった。

1832年9月21日（天保3年。おかげ参り大流行。歌川広重「東海道五十三次」の出版は翌年）

アボッツフォードでウォルター・スコットが死去（69歳）。いくらかエピソードを語ろう。1783年、スコットは12歳で古典を学ぶためにエジンバラ大学に入学した。スコットがロバート・バーンズに出会ったのは1度だけ、1786/87年頃、15歳前後で文学サロンにおいてであった。スコットは最初の出会いからわずか3週間で妻にプロポーズした。スコットの物語詩「湖上の美人」は他国でも好評で、ドイツ語訳はシューベルトの「アベマリア」にもなった。最初の小説「ウエイバリー」は、はじめ匿名で発表された。



1910年9月21日（明治43年）

バートラム・ディクソン大尉が、イングランド、ソルズベリの草原で世界初の軍事飛行を行った。ディクソンは1873年エジンバラの生まれで、彼の成功が英国空軍の前身である王立航空隊の創設につながった。彼はスコットランド人パイオニアの1人であり、パイロットとして認定を得た最初の軍人であった。1910年のこの日は、キッチナー卿と内務大臣ウィンストン・チャーチルも加わった陸軍大演習の日であり、ディクソンは2機のブリストル・ボックスカイト機の1機に乗り、演習の一翼を担った。（日本では1910年12月19日、徳川好敏大尉が代々木練兵場においてファルマン機で初飛行）。

←バートラム・ディクソン大尉の墓碑



ブリストル・ボックスカイト（箱凧）機

新しいブック・CD を紹介しているが、買った人の多くは、「1 回踊ってそれっきり」ではなかろうか。これからも多数の記念ブック・CD 発行が予想され、ことごとく購入すると費用負担もかなりとなる。持ち上げるばかりの紹介ではなく、買うか買わないかみなさんの判断の目安として、これからつぎの評点をつけたい。★買うと損する ★★コレクター向き ★★★買って買わなくてもよい ★★★★買って損はない ★★★★★ぜひ買うべき。

前回ご紹介したジム・ストットのアルゼンチン・ブック中の *The Jacarandas of Buenos Aires* は、説明書きと CD の演奏回数に違いがあり、ジムにどうするのか問い合わせ中と述べた。ジムから「申し訳ない、3 cpls in 4-cpl set の踊り方を追記 (bars 25-32 は Hello-Goodbye Setting) した」との回答があった。みなさんに届くブックは訂正版と予想されるが、そうでない場合にはトム鳥山までご連絡を。補足ページをお送りする。

Newcastle Upon Tyne & District RSCDS 70th Anniversary
CD – Marian Anderson’s and Iain MacPhail’s Dance Band

- | | | |
|---|---------------------------------|-----------------------------|
| 1. Newcastle’s 70 th Celebration (4x32S) | 7. Quince Jelly (32S+32R) x 2 | 12. Time to Spare (3x32S) |
| 2. Busy Fingers (8x32R) | 8. Gill’s Jig (4x32J) | 13. Golden Wishes (5x32R) |
| 3. Freda’s Frolic (4x32J SQ) | 9. Jesmond Saunter (8x32S) | 14. The Tyne Bridge (4x32J) |
| 4. Sheila of Morpeth (4x40S) | 10. Cathie Smith’s Reel (8x32R) | 15. Shadows (3x32S) |
| 5. A Jig for Jean (8x32J) | 11. The Bird Man (8x32J) | 16. 70 is Fun (7x32R) |
| 6. Robert’s Rant (8x32R) | | |



ニューカッスル・ブラン
チの 70 周年を記念するダン
スブックで、個々の会員が作
ったダンス集ではなく、同ブ
ランチのセクレタリ、シー
ラ・トラフォード (Festival
Man, Book 48 の作者) の作
品集である。

Newcastle’s 70th Celebration
は最初の 8 小節が数字の “70
” を表しており、割合にやさ
しい踊りである。*Busy*

Fingers もシンプル。*Freda’s Frolic* は interlocking rights and lefts が面白く、簡単・独創的で踊って楽しい。踊るときは、長手方向でこれでもかというくらい、思い切り前進する必要がある。

Sheila of Morpeth はシーラを称えた踊りで、これのみピ
ーター・エブリー (John Cass, Book 49 の作者) の作で
ある。9-24 小節の interlocking ladies chain は難しい。ク
ラスを指導する前に、踊り方を十分に把握しておくべき
で、こんなに難しくする必要はあるのか、と思う。

Quince Jelly はクインス夫妻と果実のクインス (日本ではマルメロ) のジャムを掛けたメドレーで、9-16 小節に set & la Baratte がある。

Golden Wishes で、3rd cpl は最初の 16 小節なにもせ
ず、残りの cpls が 1/2 diagonal reel of four と turn をや
る。20 小節の終わりは 5-1-4-3-2 の順序である。25-32 小
節の hands round 6 bars はミスプリントで、hands

round 3 bars (6 slip steps) が正。

用語と言い回しは RSCDS のガイドに沿っておらず、8
小節区切りの記述で分かりにくい。ダイアグラムはつい
ていない。*The Tyne Bridge* の 9-24 小節と *Shadows* の 17-
24 小節はやっと解釈できた。詳しくお知りになりたいか
たはトム鳥山にお問い合わせを。★★★★【注文略号：
ニューカッスル・ブック】

CD はマリアン・アンダーソンとイアン・マクフェイ
ルの 2 つのバンドが 16 ダンスを折半して演奏してい
る。どちらのバンドもピアノ (キーボード) はイゾベ
ル・ホジソンが弾いている。ストラスペイ 6 曲中、マリ
アン・バンドが 4 曲を演奏しており、この割り当ては妥
当であろう。ユーアン・ギャロウェイの電子バンドもい
いが、この CD の両バンドは 5 人編成の典型的ダンス・
バンドで、音に柔らかさ、深み、メリハリがある。どの
トラックも楽しい演奏である。★★★★【注文略号：ニ
ューカッスル CD】

* * * * *

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、
郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチ
でお申し込みください (送料込み)。

ニューカッスル・ブック ￥2,400

ニューカッスル CD ￥3,000

ショップ担当 大野宏子 042-576-3587

締切り 9月21日 (水)

お渡し予定 10月末